

実り 11月号②



「進路」について思うこと

先日、とあるパンフレットの裏表紙で、次のような言葉を目にしました。

“誰でも才能を持っている。しかし、もし、魚を木登りの能力で判断したら、魚は、自分のことをバカだと思い込んで一生を過ごすことになるだろう。”

アルバート・アインシュタインの言葉だそうです。これを読んだとき、先日ご講演を聞く機会があった、光市在住の人間国宝、山本晃さんのお話を思い出しました。

山本さんは、金工で重要無形文化財保持者に認定されました。ご自身では「学校での勉強は得意ではなかった」と話されましたが、高校卒業後に上京し、最初の職場で見かけた工業デザイナーの人々に憧れ、仕事を辞めて専門学校に入ったことが、今につながるきっかけとなったそうです。やりたいことが見つかった山本さんは、「専門学校では本当によく勉強をした」とのことでした。もちろん、人一倍の努力に加え、天賦の才も十分におありだったのでしょうが、自分の才能を生かせるものに出会えることは本当に幸運なことだと、お話をうかがって思いました。



山本晃さんの作品 桐嵌象嵌漆合せ箱「夕風」

中学校までに、自分の才能に気付く機会は、なかなかあるものではありません。それでも、自分で取り組んでみたいと思うものを見つけ、自分で追究していくことが、才能を生かせる道に向かうことになるのかもしれない。アインシュタインの言葉を思い浮かべるとき、子どもたちにもぜひ、その才能を生かせる道に向かって行ってほしいものだと強く思いました。

家庭学習は、「解くときよりも解いた後」



勉強は長い時間やっているのに成果が出ない、という人はいないでしょうか。そんな時は勉強の仕方を見直す必要があるかもしれません。問題集などをやるときは、解くときよりも解いた後が大切です。例えば、10問解いて9問正解しても、間違えた問題をできるようにしなければ、同じ10問を何度やっても9問正解のままです。けれど最初は点数が低くても、解き終わるたびに一つずつでも間違えた問題をできるようにしていけば、確実に点数は上がります。解くときよりも解いた後が大切ということです。

ところが、宿題などを見ると、この「解いた後」をおろそかにしている人がかなりいます。答え合わせをしても、間違ったところは正解を書き写しただけといった提出物を見ると、時間も労力ももったいないと感じます。これではいつまでたっても「9問正解のまま」になってしまうからです。もちろん、きちんと解説まで読んでいる子もいるのですが、その時はわかったような気になっても、もう一度自分で解いてみようとする、解けないことが案外多くあります。大切なのは、解き直して、自力でできるようになっているか確かめることです。時間のかかるやり方ですが、「急がば回れ」とは、こういうことだと思います。

冬休みまであと少し。今のうちに勉強のやり方を、各教科の先生に相談してみたいはいかがでしょうか。

12月の行事予定

日	曜日	予定	日	曜日	予定
1	金	三者懇談(2日目)	19	火	大島商船、徳山高専推薦入試願書・受験料振込証明書提出日
4	月	生徒会役員選挙			
7・8	木・金	私立高校願書・受験料振込証明書提出日	20	水	生徒会役員任命式
8	金	クラスマッチ	21	木	冬季休業開始



いずれかの学校の推薦入試に志願する生徒は、冬休みの間に志願書の書き方や面接などの指導を行います。多少、時間をとりますがご理解ください。また、体調管理にも十分ご配慮ください。